

第3章 下向き構文解析 (教科書 p.50)

3.1 下向き構文解析の特徴

演算子順位法は ... if ~ elseなどの制御構造の部分には使いにくい
LR法は ... 人手での作成に向かない

アイデア

左端のトークン (if, whileなど) を見て生成規則を選ぶ (_____)

例 教科書 p.14 図 1.4 の Statement (改)

```
Statement → if ( ConditionExp ) Statement ElsePart
           | { StatementSeq }
           | Id = Expression ;
           | Id ( ExpressionList );
           | ...
```

各非終端記号について次の疑似コードで示すような（再帰的な）関数を定義する

```
someType Statement(void) {
    switch (次のトークン) {
        case IF: {
            IF を消費;
            '(' を消費;
            c = ConditionExp();
            ')' を消費;
            s = Statement();
            e = ElsePart();
            return c, s, e を使った式
        }
        case '{': {
            '{' を消費;
            s = StatementSeq();
            '}' を消費;
            return s を使った式;
        }
        /* : */
    }
}
```

ここで「消費」とは、（確認して）入力の先頭から取り除くことである。

3.2 再帰下降構文解析 (recursive decent parsing)

- _____ の一種 … 幹から葉へ解析木ができていく
- _____ があるとまずい

```
expr → const
      | expr * const
```

$$\begin{aligned} StatementSeq \rightarrow & \varepsilon \\ | \quad & \underline{StatementSeq} \ Statement \end{aligned}$$

下線部のところが、一番左端の再帰的出現である。これをプログラムにしようとすると、

```
int StatementSeq(void) {
    switch (次のトークン) {
        case IF: case WHILE: ... {
            ss = StatementSeq(); /* ← */
            s1 = Statement();
            return ...;
        }
        /* : */
    }
}
```

←のところで入力が変わらないので、止まらなくなる。

必要な準備

- 先頭の共通部分をくくりだす

$$S \rightarrow A B \mid A C$$

は

$$\begin{aligned} S \rightarrow & A T \\ T \rightarrow & B \mid C \end{aligned}$$

に書き換える

- _____する
- BNF の各右辺 α に対して _____ を求める
($First(\alpha)$ は α の _____)
- $A \xrightarrow{*} \varepsilon$ となりうる非終端記号 A に対して _____ を求める
($Follow(A)$ は A の _____)

再帰下降構文解析のプログラムの作り方

各非終端記号に対して関数を定義する

- $N \rightarrow X_{11}X_{12}\dots X_{1n_1} \mid \dots \mid X_{m1}X_{m2}\dots X_{mn_m}$ に対して、次のトークンがどの $First(X_{i1}X_{i2}\dots X_{in_i})$ に属するかによって分岐する ($X_{i1}X_{i2}\dots X_{in_i} \xrightarrow{*} \varepsilon$ となる場合は $Follow(N)$ も考慮する)
- 右辺の $X_{i1}X_{i2}\dots X_{in_i}$ に対して $X_{i1}(); X_{i2}(); \dots X_{in_i}();$ のように続けて関数を呼出す (ただし、 X_{ij} が終端記号のときは単にトークンを消費する)
そのあと _____ を繰り返しに書き換える (効率のため)

3.3 アルゴリズム（左再帰の除去）(教 p.57)

$$A \rightarrow A\alpha_1 \mid \dots \mid A\alpha_m \mid \beta_1 \mid \dots \mid \beta_n$$

とする (α_i, β_j は構文記号列で β_j の先頭の記号は A ではない。 β_j の先頭以外には A は出現しても構わない)

↓

先頭が $\beta_1 \sim \beta_n$ でそのあとに $\alpha_1 \sim \alpha_m$ が 0 回以上繰り返すというかたちになる

↓

次のように書き換えることができる

$$\begin{aligned} A &\rightarrow \beta_1 A' \mid \dots \mid \beta_n A' \\ A' &\rightarrow \alpha_1 A' \mid \dots \mid \alpha_m A' \mid \varepsilon \end{aligned}$$

注:

- 最後の ε を忘れない
- 間接的な左再帰 (教科書 p.54) があるともう少しややこしくなるが、そのような場合でも除去可能であることが知られている

→

ただし、左再帰を除去すると上の図のように構文木の形が変わるために、場合によっては後処理が必要になる。

問 3.3.1

$$L \rightarrow L ; C \mid C$$

の左再帰を除去せよ。 (L, C は非終端記号、 ; は終端記号である。)

問 3.3.2

$$E \rightarrow E + F \mid E [E] \mid F$$

の左再帰を除去せよ。 (E, F は非終端記号、 +, [] は終端記号である。)

First と **Follow** の求め方の例 (詳しい説明は教科書 pp.60-61)

例 5.3

$$\begin{aligned}
 E &\rightarrow TE' \\
 E' &\rightarrow +TE' \quad | \quad \varepsilon \\
 T &\rightarrow FT' \\
 T' &\rightarrow *FT' \quad | \quad \varepsilon \\
 F &\rightarrow (E) \quad | \quad \text{id}
 \end{aligned}$$

$First(TE') = First(T) = First(FT') = First(F)$
 $\leftarrow First(F) \text{に } \varepsilon \text{ が入っていないので } T' \text{ や } E' \text{ は考慮しなくてよい}$
 $First(FT') = First(F) = \{(, \text{id}\}$
 $Follow(E') = Follow(E) \cup Follow(E')$
 $Follow(E) = \{, \$\} \leftarrow \text{開始記号の } Follow \text{ には \$ (入力の終) を追加する}$
 $Follow(T') = Follow(T) \cup Follow(T')$
 $Follow(T) = First(E') \setminus \{\varepsilon\} \cup Follow(E) \cup Follow(E')$
 $= \{+,), \$\}$
 $First(E') = \{+, \varepsilon\} \leftarrow \varepsilon \text{ になりうる場合、 } \varepsilon \text{ を加える}$
 $(First(T') \wedge Follow(F)) \text{ は求める必要はない)$

3.4 予測型構文解析表 (教科書 表5.1 (p.63))

- $First$ と $Follow$ の結果をまとめて表にまとめたもの
- 構文解析すべき非終端記号 A と入力の先頭の終端記号 a に対して _____ を示す

LL(1) 文法

予測型構文解析表のエントリーに重複がない文法のことを _____ という

- エントリーに重複があると構文解析中に _____ が必要となる (通常のプログラミング言語では記述しにくい ... Prolog の出番?)
- LL(1) は Left-to-Right Leftmost derivation (1) に由来する。 Leftmost (最左導出) はあとで説明する

表 5.1 教科書 p.63

	id	*	+	()	\$
$E \rightarrow$	i			i		
$E' \rightarrow$			ii		iii	iii
$T \rightarrow$	iv			iv		
$T' \rightarrow$		v	vi		vi	vi
$F \rightarrow$	vii			viii		

- i $\therefore First(TE') = \{(, \text{id}\}$
- ii $\therefore First(+TE') = \{+\}$
- iii $\therefore Follow(E') = \{, \$\}$
- iv $\therefore First(FT') = First(F) = \{(, \text{id}\}$
- v $\therefore First(*FT') = \{*\}$
- vi $\therefore Follow(T') = \{+,), \$\}$
- vii $\therefore First(\text{id}) = \{\text{id}\}$
- viii $\therefore First((E)) = \{(,\}$

入力例 $x + y * z$ ただし、 x, y, z は **id** に属するトークンである。

結果

導出列

木

- 最左導出 (leftmost derivation) ...
 - 下向き構文解析 (descent parsing) ... 先に根に近い節ができる

